

— 広 告 —



吉田 杏 (よだ あんず)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
石川県 金沢工業高等学校出身
(現国際高等専門学校)

高専ロボコンに始まって 今は医工連携の研究に熱中。

小学生のころは誰もが夢を描く。吉田さんにはテレビで見た高専ロボコンに参加することであった。高専の場合は勝負よりもアイデア対決というのがおもしろい。戦略やアイデアで勝ち進んでいく金沢高専のロボットに魅了された。だから高専以外は頭になかった。「高専の五年間はロボコンに熱中し、全国大会の夢も実現。機械

だけでなく制御なども必死で勉強しました。そして進路を考え始めたころ、自分が楽しむだけじゃなく人の役に立つ医療分野の研究をやりたいと思ったんです。担任の坂井仁美先生が大学でしっかり勉強して進路を決めたらいいとおっしゃって、金沢工大の新谷研究室に。編入の三年次から医工連携プロジェクトに参加し、本格的に研

究に取り組んで、さらに経験を積みたいと大学院へ。」
指導教授の新谷一博先生の専門は切削工学・生体工学。医工融合技術研究所の所長を務めている。坂井先生も金沢高専から金沢工大に編入した新谷教授の教え子である。吉田さんには同じ道を歩んだ頼もしい先輩なのだ。

「二人の先生に出会わなかったら今の私はないですね。新谷先生はとてもエネルギーが豊富。医工連携をずっと推進されていて、産官学のいろんな人を巻き込む人間的魅力があります。私の研究テーマは、フッ素を添加した薄膜の耐摩耗性の検討と抗菌性の時間的推移に関する研究です。本学では規定の細菌は扱えないため、共同研究室である金沢医科大学の協力を得て抗菌試験を進めています。」
医療機器や医療サービスの高度化を目指す医工連携は、飛躍的な進展を遂げている。金沢工大でも

医学を理解した工学技術者の育成に力を入れており、医工連携プロジェクトの定期フォーラムなどで吉田さんも何回か発表した。そして十一月には久留米市で開催される臨床バイオメカニクス学会で多くの専門家の前に立つ。

「うちの大学でも生命科学や解剖学などの本が増えていますが、医学の専門書籍は金沢医科大や金沢大の図書館も利用しています。私には未知の分野で、評価方法も工学と医学ではちがう面もあり、難しいけれど面白いです。」
就職は、専門を活かせる日用品の大手メーカーの研究職へ。機械や電気など歴史のある学問は裾野が広く、女性の活躍も増えている。吉田さんは、高専から大学院までの九年間の成果を、遺憾なく発揮してくるにちがいない。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘五七
電話番号(076)248-1000

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー